

■ 視察目的

4年に1度開催されるイタリア・ミラノ：エキスポ ディテルゴ国際展示会及び、イタリア コモ：ニュークリーニンググループホテル・病院寝具工場と、フランス・モー市：ブランシスリー77 病院寝具工場の視察を通じ、業界動向や世界の最新事情を調査する。

また、視察同行の他社リネンサプライヤーとの交流による情報交換を通じて、自社工場の目指すべき方向性を研究する。

■ 統括

今回の視察の総評として、例えば連続洗濯機・乾燥機等の「機械単体における能力向上」ではなく、「工場全体をシステム管理することで生産量を安定化させる」工夫が見てとれた。

展示会の機器実演についても、省人化を推し進める吊り下げ式シーツ搬送システムがジェンセン／カーネギーサ両メーカーが実演を行っており、搬送機器と組み合わせた機器提案を全面に押し出していた。

生産工程はジェンセンコックピット（ランドリー工場向け生産管理システム）を全面採用。計画に対する各機械における生産量・稼働時間・水／エネルギーの使用量の情報を元に、工場全体の生産状況を一元的に管理している。そのため、マネージャーは事務所に居ながらにしてこれらを把握することが出来、また不測の事態にも迅速に対応している。

品物入荷から出荷までを高度に「見える化」を行っており、ボトルネック部の解消が達成されていた。

例えば中途半端に生産管理システムを導入すると、その後は管理者が継続して「データ打ち込み」や「生産状態の分析」が手間となり、次第に使われなくなる恐れがある。

しかし視察した両工場のように、バックモノレールシステム・バイキング等のアシスト機器を積極的に活用し、ユニフォームではICチップを使用した自動読み取り装置の導入、シーツやタオルはスタッキング枚数を積算して管理システムへ送信される様子を見ていると、もはや紙と鉛筆で枚数を確認・集計して、パソコンへ手入力をする作業は前時代的にさえ見えた。

両工場を通じて、省人化機器を全般に使用する事で作業者の負担が減ることはもちろん、同時に「見える化」も高度に実現している事が驚きであった。

実際、訪問したニュークリーニンググループ工場（イタリア：コモ）では533kg／名（※）と非常に高い生産性を実現している。日本での平均生産量は平均して3～400kg／名とのことから、その効率の良さが伺える。

※ 生産：40ト／日、従業員数：75名、稼働20時間2シフト制。